

# 柏市訪問雑感

李 傑

(女 20才 大学2年 ホストは下川明男さん)

2008年1月20日、私は承德市青少年代表団の一員として日本の柏市への六日間の旅が始まりました。ちょうど承德と柏市の25周年に当り、本当に幸運でした。この様な記念すべき時に柏市へ行くことができ大変嬉しく思いました。わずか六日間でしたが、感慨は数多く、得るところ大でした。日本語専攻の学生として今度の訪問は、私の学習生活の中でとても大切な宝物となるに違いありません。同時に私の勉強意欲を掻き立て、将来チャンスがあれば日中友好交流のために自分なりに貢献できるように、専門性を磨き上げようとする気にさせてくれました。以下は私の六日間の日本についての感想です。

1. **礼儀型社会** 飛行機を降りるとすぐに、柏市交流協会の皆さんの心のこもった接待をうけました。真っ先に「礼儀の国」と言われる日本にいい印象を持ちました。交流が深まるにつれて「礼儀の国」の確信をますます強めました。六日間でしたが、至る所で至れりつくせりのもてなしを受けて、我が家に帰ったような気持ちになり自然に沸き起こりました。その上、日本人の社会では、“夫婦が互いに大切な客人のように尊敬しあっている”姿を見ました。これらはすべて日本が礼儀型社会であることを十分に証明しています。日本へ始めて来た人にとっては精神的洗礼になるに違いないと思いました。

2. **環境保護型社会** 1月21日、柏市の「ごみ処理場」を見学しました。多額のお金を費やし4年間かけて完成したこの全国最高レベルの「ごみ処理場」は、日本政府が環境保護を重視していることを十分に体現しています。おいしい空気を吸って、清潔な環境を見ていると、中国でも環境保護意識を強め、環境保護事業のために貢献しなければと思いました。同時に自分自身の責任も感じました。

3. **文明型社会** 1月24日、私のホストファミリーの下川さん夫妻が外で夕食を一緒に連れて行ってくださいました。楽しかったので、下川さんは少しお酒を飲みました。食事が終わると、下川さんの奥さんは自ら進んで運



転の任務を引き受けました。下川さんも自分から助手席に座りました。これを見て私は日本の精神文明と法律文明を身にしみて感じました。日本の人々は誰も、非常に積極的に自己を制約して法律を守る、これこそ社会進歩の動力であり、全世界の

人が共に学ぶに値すると思いました。

**4、学習型社会** 日本で電車に乗っている時、車内では誰も静かで本を読んだり、パソコンなどで資料を調べています。その表情のまじめさには感動しました。また私の身近にいた下川さん夫妻およびKIRAの方々もいつも勉強して、自分を充実させ、豊かにしていました。これを見て私は吾ながらやたらに時間を浪費している行為が恥ずかしくなりました。毎分毎秒を大切に、自己を充実させ豊かにしようと自らを励ましました。

**5、目標型社会** 交流期間中私が接触した日本の方は誰もが自分の日程表を持っていて、日毎、時間毎にやるべき事がはっきりと書いてあります。だから一つ一つの目標は非常に明確で、目的性が大変強いのです。その為、日本人の生活は忙しいが混乱せず、充実しているが煩雑になっていません。これこそが日本の経済の蓄積を促進するのに大いに役立ったのです。これを見て私も目標がはっきりしている人になろうと決心しました。

**6、調和型社会** 柏泉亭の茶室で、茶道の先生が、「何回もてなした人でも一生に一度限りであるようにもてなす。」と話されました。この「一期一会」と言う言葉は私に深い印象を残しました。すべての日本人が正にこのような真面目な態度により、こんなに調和し、発展した日本を作り上げたのだと思います。私も同様に真面目な態度により、祖国の発展に尽くそうと思います。

**7、団体型社会** 柏市立高校で、私の一生を震撼させるような演奏会を聴きました。私が感激したのは彼らの一分のすきもない団体精神です。200人もの団体があの短い時間にそのチームワークは本当に見事に完璧にでした。私のように音楽が分からない者でさえ感動のあまり手足が震えました。チームワークはどの領域においても人を震撼させる奇跡を起こすと思いました。日本人のチームワークは世界文明です。だから、日本人は次から次へと奇跡を作ったのです。



六日間は短かったけれど、数え切れないくらい多くのことを学び取ることができました。今回の友好交流は青少年代表団一人ひとりにとって、一生の糧を得る事ができたと思います。更に多くの日本と中国の青少年がこのような学習の機会をもてるように希望します。そして柏市と承德市との交流がすえながく発展し、豊多彩になって行くようお祈りします。